

お話をよく聞く子どもを育てる

阿弥陀さま・お釈迦さま・親鸞さまのお話を聞いて、
やさしいこころを育む。

新型コロナウイルス感染症は拡大し続けています。陽性者数増加の数字ばかりのニュースには若者の増加、それは子ども・幼稚園児まで広がっています。そんな今、常に感染リスクの高い最前線で治療にあたっておられる医師・看護師等の医療関係者の方々や公衆衛生の対策を整えられている方々のご尽力におかれましては頭が下がります。

新型コロナウイルスが長く続き、諍勝・中傷も増えるばかり「マスク警察」まで出てきました。電車内でマスクを着けていない人を非難したり、公園でマスクなしで遊んでいる子どもに怒鳴ったり……みんなの安心安全のためのマスクであるはずなのに、着用共生の意識が強まりすぎて「マスク禍」とでも呼ばれるような息苦しさが生まれています。マナー違反だと責めるだけでは解決しない、悲しい生死のいのちの世界が垣間見えるようになってます。

このような思いもよらない自粛生活中だからこそ子どもたちと共に平等の生活を大切にしましょう。早起きをして、お父さん・お母さんとの挨拶から朝が始まります。幼稚園でも朝のあいさつ、朝の礼拝、おべんきよう、お昼のお弁当……いつものように日常のまことの保育生活をていねいに努めて大事にしましょう。

2歳児のA子ちゃんのお迎えの時の出来事です。運動場の向こう側に駐車場があります。車が駐車場に来ると先生たちはお迎えの車を確認します。そして「A子ちゃん！ お迎えですよ」と声を掛けます。A子ちゃんは急いでお帰りの用意をしています。お迎えの人が近づいてくると「あ！ A子ちゃんお母さんのお迎えだったね！」と言ったら、急にA子ちゃんは泣き出したのです。登園時に今日のお迎えはおばあちゃんですとA子ちゃんがお話してくれていたからです。

大声で泣くその声は止まりません。「お母さんだったからよかつたじゃない」といつても止みません。「おばあちゃん」と言っていて泣くばかりです。お姉ちゃんがA子ちゃんのそばにいても聞いてくれないです。するとお母さんが泣いているA子ちゃんのそばにいくと「おばあちゃんだと思ったの？」と言ったのです。まだA子ちゃんは「おばあちゃん」といつても泣いています。少し間をおいてお母さんは「A子ちゃん、おばあちゃんだと思ったの」とまた言いました。

すると、少し泣き声が小さくなりました。するとお母さんは立ち上がると「さあ、おばあちゃんのところにかえりませよ」というと、お姉ちゃんがA子ちゃんの手をとって「先生、さようなら」と礼をしてお母さんと一緒に帰ってゆきました。

お母さんはお迎えに来て、A子ちゃんが泣いていたので、お母さんは自分のことは何も言いませんでした。A子ちゃんが言った「おばあちゃん」の言葉をもう一度「おばあちゃんだと思ったの」と言ったのです。私はお母さんの言葉かけを懐かしく思い出していました。そうです「オウム返し」です。A子ちゃんは「おばあちゃん」と言った自分の言葉をお母さんが同じように「……だと思ったの」と受け止めてくれたから、少しずつ落ちついていき泣き止んだのです。

お母さんはA子ちゃんの言った言葉でかえしたので、A子ちゃんは自分のことを一番よく知っていたくれるのはお母さんだと安心して居るのです。A子ちゃんのお母さんは「オウム返し」を実践していたのです。

「愛」の字を「受ける心」にノと書くのです。と覚えた友人がいました。クイズ風に数式で書くことと受+心+ノ=愛になります。A子ちゃんのお母さんの「……ノ」は相手の言葉通り受け止めて「お母さん！ こけた！」「こけたノ」「0点取った」「0点散ったノ」等の「ノ」は相手を認めたやさしさが同じ言葉となって「オウム返し」になったのです。A子ちゃんを受け止めているお母さんに安心して帰るA子ちゃんは聞いてくれる場所があるからです。お母さんが好きな子どもに育ちます。

新型コロナウイルス感染症はソーシャルディスタンスの名の下に「三密」①密閉（空間）②密集（場所）③密接（場面）を掲げています。三密は家族の和を壊してしまいかねません。いつでもどこでもどんなときでも阿弥陀さまの願行成就のお慈悲に満たされて子どもたちは「和顔愛語（おだやかな顔とやさしい言葉）」を大切にしてお話し好きな子どもが育つ家庭となるでしょう。

教育原理委員会 水上覚也

まことの保育の願い